

＼ご存知ですか？／

地域あんしん支援員

＊地域あんしん支援員とは

いわゆる「社会的孤立」等の状態にあり、福祉的な支援が必要であるにもかかわらず、既存の制度や地域だけでは対応が困難な方に対し、行政等の関係機関、地域との連携の下、寄り添いながら福祉的な支援に結びつけることにより、地域社会において、だれもが安心して日常生活を営むことを実現させ、もって本市の地域福祉の向上を図ることを目的としています。

※「地域あんしん支援員設置事業」は京都市の委託を受けて京都市社会福祉協議会が実施しています。



＊支援対象となる方

※一部対象にならない方もおられますので、まずはご相談ください

福祉的な支援が必要であるにもかかわらず、
**対応する
公的制度のない方**

福祉的な支援が必要であるにもかかわらず、
支援を拒否する方

複合的な課題を抱えている方や、世帯の中に複合的な課題があるにもかかわらず、
総合的な支援を受けられていない世帯に属する方

＊支援の流れ



6つの課題

世帯ごとに課題(複数の場合あり)を設定し、その課題に取り組んでいます

ごみ堆積

ごみ等物品が堆積しており、生活に支障をきたしている不衛生な環境にある

就 労

能力に応じた就労ができていない無職、転職(増収)が必要、役割が持てる居場所がない

利用拒否

必要な医療や介護、福祉サービス等の利用を拒否している

困 窮

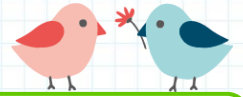
十分な収入がない(要保護等)、負債が家計を圧迫している、やりくりができない等

孤 立

周囲に支援者や見守りがない

その他

ライフライン途絶、転居の必要性など上記に当てはまらないもの



事例 1

障害が疑われる40代の兄弟2人世帯

片付けが苦手で室内は物が散乱し生活スペースを圧迫している。弟は働きたい思いはあるが仕事に就けず長年働いていない。

- ▶ 一緒に片付け作業をする中で関係づくりを行う。困りごとを聞き取り、福祉サービスの利用を提案し、障害者手帳の取得を支援。ヘルパーと就労支援事業所の利用に繋がった。



事例 2

ひとり暮らしの高齢者

家にはごみが堆積している。介護保険サービスの利用を勧めているが、拒否している状態。

- ▶ 本人の困りごとを丁寧に聞くことにより、信頼関係を深めた。家族が亡くなってから寂しいと話したため、地域の居場所を紹介した。また、自宅で転倒したことがきっかけとなり、ホームヘルパーやデイサービスなどのサービスにもつながった。



事例 3

本人、兄、妹、弟の4人全員が療育手帳を持っている世帯

収入に余裕がなく、屋根や壁が崩落し、猫の多頭飼育により、不衛生な家屋に住んでいるが、現状改善のための支援は拒否している状態。

- ▶ 長姉としての責任感が強い本人の思いに寄り添いながら、兄弟にもアプローチし、世帯内での合意形成を促した。猫については一部手放す必要性を理解し、譲渡や避妊治療を行った。また、転居の際には、今後の相談者として障害者地域生活支援センターを紹介し、困りごとを相談できる体制を整えた。

